



TITLE:

鹿島丸にて

AUTHOR(S):

荒木, 俊馬

CITATION:

荒木, 俊馬. 鹿島丸にて. 天界 1929, 9(97): 259-259

ISSUE DATE:

1929-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161394>

RIGHT:

陽黒點活動帶は、毎月二十日頃にあると云つたが、二月は例外であつて、反つて二十日頃は沈滞期であつた。

二月のプロミネンスは、小さいながらも、數多くあるこの事、やつぱり寫眞撮影と違ひて天氣の惡いため觀測の出来る日は非常に少ないらしい。

此間、寫眞現像室が水浸りになつて、私が太陽寫眞を水洗して翌日迄、そのまゝにしてをいた所、夜の間に、流しの水氣が防がつて、寫眞室一面に膝を没する洪水になつてた。此の水を全部かい出すのに、いらぬ時間を費して、大損害を蒙つた。

太陽課の此の欄は、月々の觀測報告を主とするが、此れからは、其他に來るべき月々の豫報をも少しづつ載せる事にする。毎月天象欄の太陽の所の P_0 B_0 L_0 の隱も、話の都合でこゝに移しかへるかもしれん。其他、直接に太陽に關する事でなくても、關接にでも太陽に關する事なら遠慮なく載せる。〔以上〕

鹿島丸にて

謹啓 出發の際は態々御見送被下恐縮仕候。尙澤山の紹介狀を被賜大いに心強く存居候。難有御禮申上候。立海灘に出た近所、上海より揚子江河口に出た附近及び香港から出た近所がやゝ荒れ申し候も其他は至極平穩なる海にて毎日楽しく航海を續け居り候間御安心被下度候。香港を出て、五日明日は早朝シンガポールに着く由にて御座候。三ヶ月ばかりの後には京都天文臺の人々が丁度このあたりを航海せられる事を想ひて感無量なるもの有之候。香港とシンガポールの間の中三日間全く何者も見えず候。昨夜は心ゆくまでに大空の星ごしたしみ申候。金星、木星、火星をつらね、赤道は頭上に近く御座候。デツキに立ちて星をながめ居り候處。カリフォルニアの眼科醫なる米人來りて色々質問いたし候間大いに氣を上げて、太陽系の話やら、木星や火星の話や、銀河系の構造や、シリウスを指してそれ迄の距離などを説明申し候。丁度夕食の食卓でビールをひっかけ居たる爲め、平素うち氣なる小生も大膽なるブローリンクングイツシュを連發し候も大體言はんご欲する所は通じたる如く候。船中日本人は極く少く候。

今朝未明に水夫が一人あやまつて海中に落ち大そうごうをいたし候。幸に海が平穩なりし爲めついに見出しボートを下して助けあげ候も、その爲朝一時間あまり大海の眞中にこまり候。

時節柄御自愛專一を祈上げ候。天文臺の諸君によろしく御鶴聲被下度候

昭和四年一月三十日 於南支那海 荒 木 俊 馬
山 本 一 清 先 生 御 侍 史